

PM学会四国支部7月度研究会議事録

日 時： 7月18日(金) 14:00～16:10

場 所： 香川大学工学部キャンパス知的財産・社会連携センター3Fセミナー室

共 催： 香川大学知的財産・社会連携センター技術交流協力会プロジェクトマネジメント研究会

講演：「内部統制とは」

講師：NECシステムテクノロジー株式会社 田中 正樹氏

講演：「統合マネジメントシステム構築による全体最適」

講師：元富士通インフォテック情報系SE

現ダイナックス高松契約コンサルタント 横井 新次郎氏

出席者： 40名（別紙出席者リスト参照）

司会進行：板倉 宏昭（四国支部事務局）

内 容：

四国支部事務局の挨拶に続き、講師の田中先生による講演があった。（約60分）

「内部統制とは」

上場企業における内部統制は、すでに運用・評価段階に入っており、来年3月期の決算から、内部統制報告書の提出、公認会計士によるチェックへと進んでいる。

日本版SOX法（実施基準）が定義する「内部統制」とは、企業等の4つの目的の達成のために、企業内のすべての者によって遂行されるプロセスであり、6つの基本的要素から構成される。

4つの目的は、①業務の有効性及び効率性、②財務報告の信頼性、

③事業活動に関わる法令等の遵守、④資産の保全 である。

6つの基本的要素は、①統制環境、②リスクの評価と対応、③統制活動

④情報と伝達、⑤モニタリング、④資産の保全 である。

目的の④資産の保全と、基本的要素の④資産の保全は、日本独自に追加された項目である。

続いて、質疑応答・ディスカッションでは1人の方から質問があった。（約5分）

10分の休憩の後、講師の横井様による講演があった。（約50分）

統合マネジメントシステムとは、ISO 9001 (QMS)・ISO 14001(EMS)・ISO 27001(ISMS)・

JIS Q 15001(PMS)等のマネジメントシステムを、管理手順の統一化・総合化・簡素化を経て、統合運用することで、効率化とスピードアップを図ることを意図したマネジメントシステムである。

これまでのISO認定取得の問題点として、

①各MS間の方針・目標間に整合性がない

②各MS毎に管理体制がある

③文書・記録体系がいくつもある

④内部監査・外部審査が多い

⑤マネジメントレビューが多い

⑥各規格に対応する手順間で矛盾がある などがあり、業務効率の低下と運用コストの増大が指

摘されている。

ISO MS の特徴は、PDCA サイクルを共通化してひとつのマネジメントシステムとすることにある。

続いて、質疑応答・ディスカッションでは3人の方から質問があった。(約10分)

事務局から、今後の研究会の予定等のご案内を行った。

最後に、四国支部長の小山先生から、ご挨拶があった。

講演の後、16時20分より、香川大学知的財産・社会連携センター3Fロビーにて懇親会を行った。

以 上